

株主通信

第153回 定時株主総会決議ご通知
第153期 報告書

YBHD NEWS No.50 平成29年6月



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911



つなく、むすぶ、広げる、未来へ

The Next Perspective



代表取締役社長

吉井 久司

平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに当社第153期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)事業年度が終了いたしましたので、株主通信をお届けし、その概況をご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、英国のEU離脱に象徴される保護主義の広がりや、予断を許さない国際情勢の影響を受けながらも、企業収益や所得環境に改善の傾向がみられ、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。しかし、経済の好循環の拡大には至っておらず、景気の見通しは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループの中核事業であります橋梁事業においては、厳しい受注競争が続く状況でありましたが、新設事業・保全事業ともに大型工事の受注を積み重ね、保全事業の受注高が過去最高の水準に達するなど、橋梁事業全体で受注目標を達成いたしました。

エンジニアリング関連事業においてはシステム建築事業と土木関連事業の受注が拡大し、ともに前期実績を上回ることでできました。システム建築事業につきましては、物流倉庫等の高い建設需要が継続したこともあり、7期連続で受注が伸びました。

この結果、当社グループの平成29年3月期の業績は、売上高と営業利益において過去最高を更新することができました。

当社は、株主の皆様に対する利益配分を最重要施策の一つとして認識し、業績ならびに今後の事業展開に伴う資金需要などを総合的に勘案のうえ、安定した配当を継続することを基本方針としております。当期の期末配当金につきましては、この基本方針に基づき、1株当たり8円とし、中間配当を含めた年間配当金は1株当たり16円とさせていただきます。

第4次中期経営計画の最終年度であります平成30年度の業績目標(売上高1,250億円、営業利益75億円、1株当たり当期純利益125円)につきましては、受注が好調に推移しましたため1年前倒しの平成29年度に達成できる見込みとなりました。

今後も、計画の基本方針であります橋梁事業全体の拡大、エンジニアリング関連事業の成長、大規模更新・大規模修繕事業への取り組みを強化し、事業推進の手綱を緩めることなく、更なるグループの発展を目指してまいります。

厳しい事業環境が続きますが、グループ一丸となり、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成29年6月

第153回定時株主総会決議ご通知

平成29年6月28日開催の当社第153回定時株主総会におきまして、以下のとおり報告ならびに決議されましたのでご報告申し上げます。

- 報告事項**
- 第153期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記事業報告、連結計算書類の内容およびその監査結果を報告いたしました。
 - 第153期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

決議事項

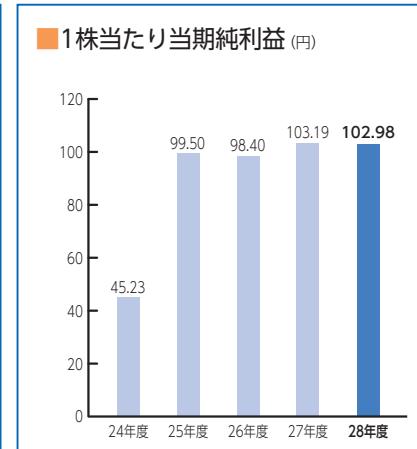
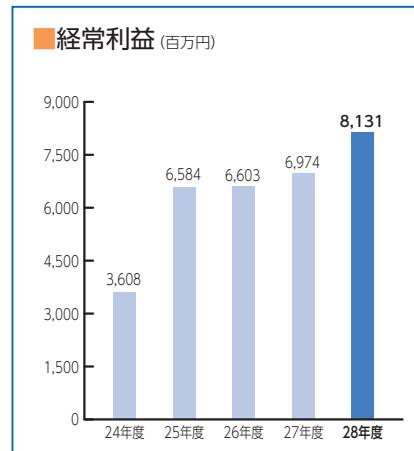
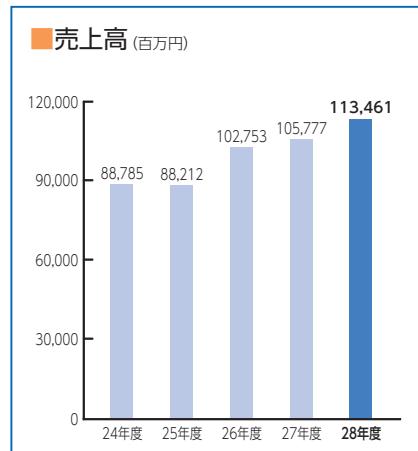
- 第1号議案 剰余金の配当の件**
本件は、原案どおり承認可決されました。
(期末配当金は1株につき8円と決定いたしました。)
- 第2号議案 取締役1名選任の件**
本件は、原案どおり承認可決され、取締役に小林明氏が新たに選任され、就任いたしました。
なお、同氏は本総会終結の時をもって取締役に辞任された金子俊一氏の補欠として選任されましたので、その任期は当社定款の定めに従い、他の在任取締役の任期の満了する時までとなります。
- 第3号議案 監査役1名選任の件**
本件は、原案どおり承認可決され、監査役に荒渡薫氏が新たに選任され、就任いたしました。
- 第4号議案 退任監査役に対し退職慰労金贈呈の件**
本件は、原案どおり承認可決され、深沢誠氏に対し、当社における一定の基準に従い相当額の範囲内で退職慰労金を贈呈することとし、その具体的金額、贈呈の時期、方法等については、監査役の協議に一任されました。

以上

本総会終了後開催いたしました監査役会において、北爪恒平、荒渡薫の2氏が常勤監査役に選定され、それぞれ就任いたしました。

なお、取締役を退任いたしました金子俊一氏は、当社グループ関連企業である株式会社ワイ・シー・イーの常勤監査役に就任いたしました。

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
売上高 (百万円)	88,785	88,212	102,753	105,777	113,461
経常利益 (百万円)	3,608	6,584	6,603	6,974	8,131
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,966	4,288	4,210	4,386	4,304



外環市川中鋼殻架設工事 ～東京外環自動車道における施工実績～

横河ブリッジホールディングスグループより、外環市川中鋼殻架設工事をご紹介します。

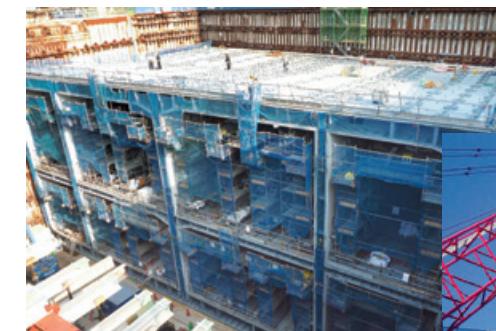
工事名称:外環市川中鋼殻架設工事
工 期:平成28年12月1日～平成29年6月30日
発 注 者:東日本高速道路(株)
客 先:鹿島建設(株)・(株)大林組・鉄建建設(株)JV

現在、東京外環自動車道では首都圏の渋滞緩和などのために千葉県区間(松戸市小山～市川市高谷)において道路整備が進められています。

本工事は、市川市付近の地下に高速自動車道を開通させるため、地下23mに鋼製カルバートを設置する工事となります。鋼製カルバートとは地下に空間を確保するための鋼構造物です(鋼製カルバート設置イメージをご覧ください)。今回の工事では、工程短縮と現場作業の削減による安全性向上を目的として鋼製カルバートが採用されました。

今回の工事の鋼製カルバートは、高さ18m(2層)、幅43m(4列)、長さ43mであり、鋼重5,308t、部材475ピース、ボルト約14.6万本で構成されています。鋼製カルバートの設置は、2台のクローラークレーンを使用して2班で行いました。また、ボルトの本締めを別班の3班体制で実施し、1日最大9ピースを設置することで、目標通りの成果を得ることができました。

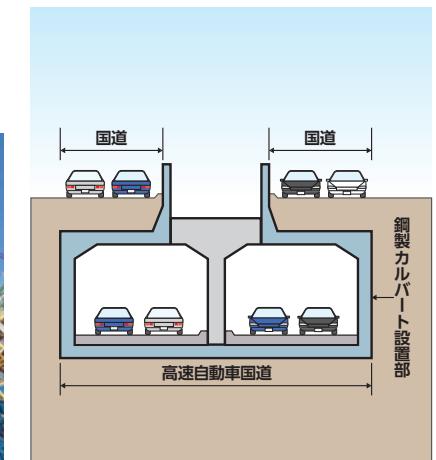
当社グループは、鋼橋の施工を通じて培ったノウハウを広く鋼構造物に活かし、社会インフラの整備に貢献してまいります。



鋼製カルバート設置状況(全景)



鋼製カルバートの部材をクレーンで吊り上げる



鋼製カルバート設置イメージ

■ 連結貸借対照表

	前 期 平成28年3月31日現在	当 期 平成29年3月31日現在
資産の部		
流動資産	76,692	87,740
現金預金	18,545	16,477
受取手形・完成工事未収入金等	52,740	64,772
有価証券	388	664
たな卸資産	1,183	1,001
繰延税金資産	2,367	3,602
その他	1,480	1,228
貸倒引当金	△ 14	△ 6
固定資産	38,226	40,415
有形固定資産	18,815	19,380
建物・構築物(純額)	6,130	6,069
機械装置及び運搬具(純額)	2,288	2,645
土地	9,760	9,531
建設仮勘定	380	855
その他(純額)	255	278
無形固定資産	942	993
ソフトウェア	867	917
その他	75	75
投資その他の資産	18,468	20,042
投資有価証券	15,438	16,807
関係会社株式	142	171
繰延税金資産	2,448	2,686
その他	438	376
資産合計	114,919	128,156

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位:百万円)

	前 期 平成28年3月31日現在	当 期 平成29年3月31日現在
負債の部		
流動負債	37,421	37,199
支払手形・工事未払金等	15,750	17,062
短期借入金	2,400	4,800
1年内償還予定の社債	2,500	100
1年内返済予定の長期借入金	3,732	532
未払法人税等	2,208	1,767
未成工事受入金	2,570	2,699
工事損失引当金	3,821	4,395
賞与引当金	1,988	2,056
事故関連損失引当金	—	1,650
その他の引当金	69	67
その他	2,380	2,067
固定負債	11,944	21,099
社債	—	2,450
長期借入金	768	6,136
繰延税金負債	1,576	2,165
再評価に係る繰延税金負債	—	70
役員退職慰労引当金	670	716
退職給付に係る負債	8,546	9,197
その他	382	362
負債合計	49,365	58,298
純資産の部		
株主資本	61,192	62,870
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,089	10,089
利益剰余金	44,399	46,858
自己株式	△ 2,731	△ 3,513
その他の包括利益累計額	3,166	5,443
その他の有価証券評価差額金	4,114	5,367
土地再評価差額金	△ 947	159
退職給付に係る調整累計額	—	△ 84
非支配株主持分	1,194	1,544
純資産合計	65,553	69,857
負債純資産合計	114,919	128,156

■ 連結損益計算書

	前 期 平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで	当 期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで
売上高	105,777	113,461
売上原価	91,155	97,721
売上総利益	14,621	15,740
販売費及び一般管理費	7,716	7,719
営業利益	6,904	8,020
営業外収益	399	416
営業外費用	330	305
経常利益	6,974	8,131
特別利益	257	2,387
特別損失	337	4,311
税金等調整前当期純利益	6,894	6,208
法人税、住民税及び事業税	2,768	2,945
法人税等調整額	△ 462	△ 1,393
当期純利益	4,587	4,656
非支配株主に帰属する当期純利益	200	351
親会社株主に帰属する当期純利益	4,386	4,304

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

	前 期 平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで	当 期 平成28年4月1日から 平成29年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,132	△ 5,166
投資活動によるキャッシュ・フロー	3	△ 62
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,878	3,162
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 13	△ 1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,244	△ 2,068
現金及び現金同等物の期首残高	14,271	18,515
現金及び現金同等物の期末残高	18,515	16,447

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

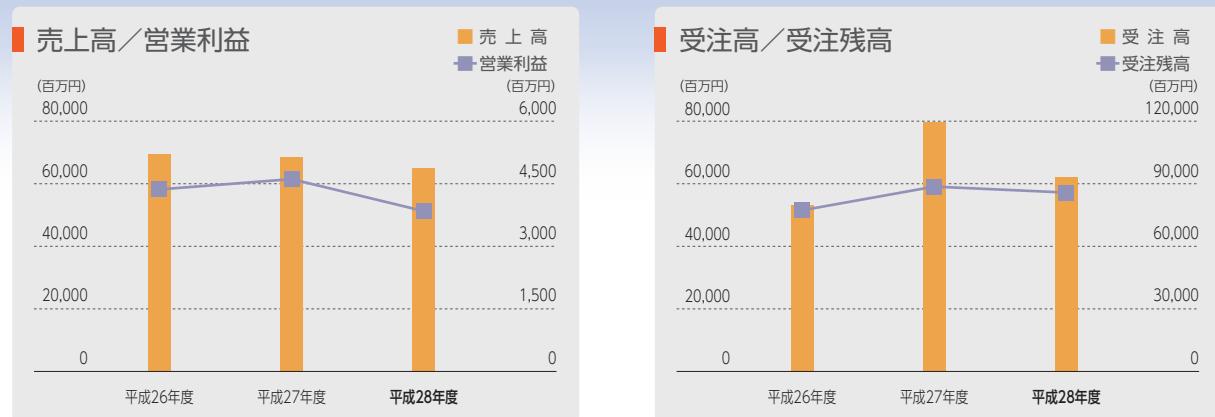
■ 連結株主資本等変動計算書

	株主資本					その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで											
当期首残高	9,435	10,089	44,399	△ 2,731	61,192	4,114	△ 947	—	3,166	1,194	65,553
会計方針の変更による累積的影響額			4		4						5
会計方針の変更を反映した当期首残高	9,435	10,089	44,403	△ 2,731	61,197	4,114	△ 947	—	3,166	1,194	65,559
当期変動額											
剰余金の配当			△ 671		△ 671						△ 671
親会社株主に帰属する当期純利益			4,304		4,304						4,304
自己株式の取得				△ 782	△ 782						△ 782
自己株式の処分			0	0	0						0
土地再評価差額金の取崩				△ 1,177	△ 1,177						△ 1,177
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						1,252	1,107	△ 84	2,276	349	2,625
当期変動額合計	—	0	2,454	△ 782	1,672	1,252	1,107	△ 84	2,276	349	4,298
当期末残高	9,435	10,089	46,858	△ 3,513	62,870	5,367	159	△ 84	5,443	1,544	69,857

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

セグメント別の状況

1 橋梁事業



(単位:百万円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
売上高	69,325	68,434	65,072
営業利益	4,366	4,611	3,843
受注高	53,229	79,571	62,214
受注残高	77,490	88,627	85,768

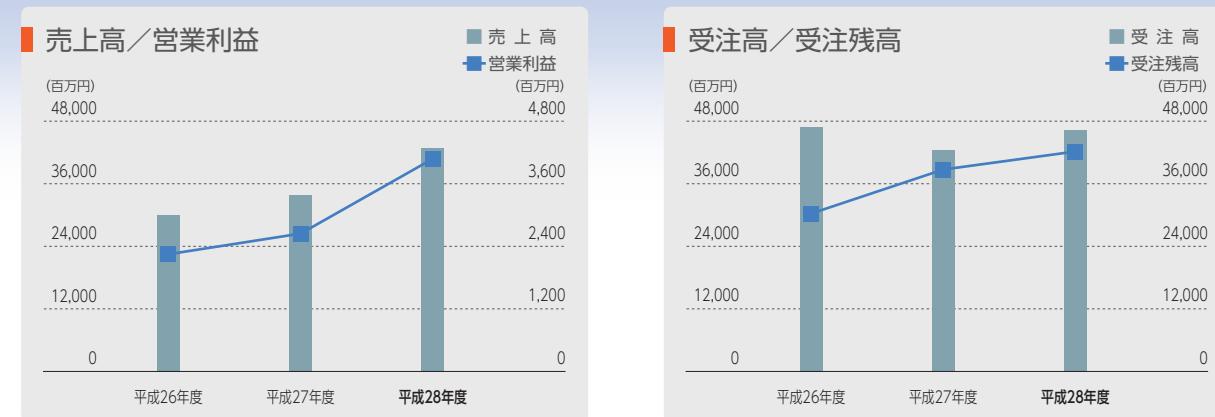
当期の経営成績

- 大型プロジェクトが減少する中で、一部案件の発注が翌期にずれ込むなどの状況が重なりましたため、国内新設橋梁の発注量は昭和38年以降で最低の水準となりました。このような状況のもと、新設橋梁の受注につきましては、第3四半期までは伸び悩みましたが、第4四半期で大型工事の受注を積み重ねることができました。また熊本地震で損傷しました橋梁の復旧も含め、大型の補修・補強工事の受注が重なりましたため、橋梁保全事業の受注高は過去最高の水準となりました。
- 業績につきましては橋桁落下事故による上期の落ち込みを取り戻せず、減収減益となりました。

今後の取り組み

- 3期連続で減少しました国内新設橋梁の発注量につきましては、その反動もあり、平成29年度は若干回復する見込みです。中期的な見通しとしましても、老朽化対策としての橋梁補修・橋梁架替の全国的な需要に加え、高速道路の大規模更新・大規模修繕事業が本格化してまいりますため、橋梁事業全体の市場は一定の規模を保っていくものと思われます。
- 来期の業績は、売上高688億円、営業利益39.5億円と予想しております。

2 エンジニアリング関連事業



(単位:百万円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
売上高	30,045	33,924	42,860
営業利益	2,248	2,644	4,079
受注高	46,913	42,375	46,318
受注残高	30,274	38,725	42,184

当期の経営成績

- 物流倉庫などの旺盛な需要が継続しましたため、システム建築事業の受注が7期連続で伸びました。また、土木関連事業もシールドトンネル用セグメントの受注により前期実績を上回りました。
- 業績につきましてはシステム建築事業が前期を上回り、さらにシールドトンネル用セグメント、防潮堤などの土木関連事業が大幅な増収となりました。

今後の取り組み

- 土木関連・建築関連とも需要は当面堅調に推移していくと想定しております。
- 来期の業績は、売上高550億円、営業利益41億円と予想しております。

3 先端技術事業

売上高／営業利益



受注高／受注残高



(単位:百万円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
売上高	2,588	2,646	4,754
営業利益	370	437	791
受注高	2,589	3,095	5,205
受注残高	650	1,099	1,550

当期の経営成績

・精密機器製造事業の受注が好調に推移しましたため、前期を大幅に上回り、過去最高の実績となりました。

今後の取り組み

・引き続き新製品の開発、新規顧客の開拓に努めてまいります。
 ・来期の業績は、売上高55億円、営業利益8.5億円と予想しております。

4 不動産事業

当期の経営成績・今後の取り組み

・安定的な収入と利益を確保することができました。
 ・来期の業績は、売上高7億円、営業利益3.5億円と予想しております。

株式の状況

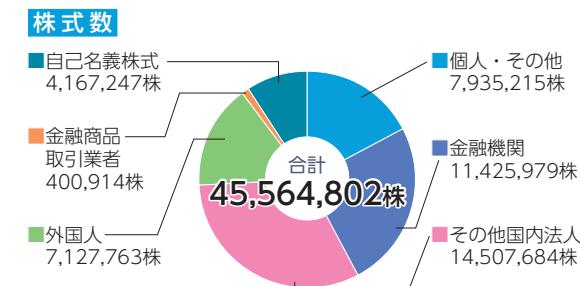
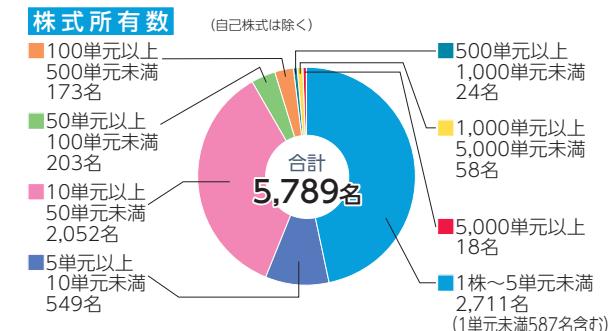
発行可能株式総数…………… 180,000,000株
 発行済株式総数…………… 45,564,802株
 株主数…………… 5,789名

大株主 (上位10名)

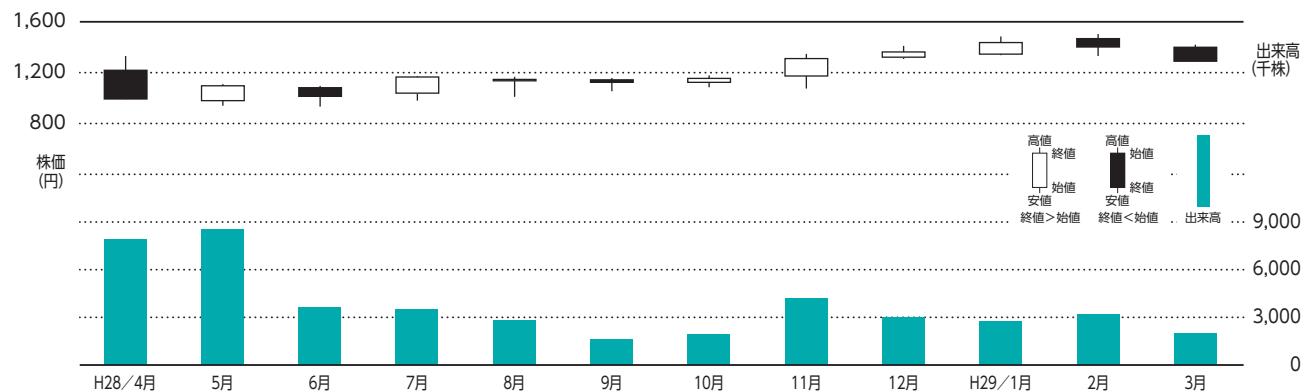
株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口)	2,469千	5.96
横河電機(株)	2,234千	5.39
新日鐵住金(株)	1,987千	4.80
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	1,795千	4.33
(株)みずほ銀行	890千	2.15
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	865千	2.09
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口9)	731千	1.76
日本トラスティ・サービス信託銀行(信託口5)	676千	1.63
住友不動産(株)	674千	1.62
資産管理サービス信託銀行(証券投資信託口)	635千	1.53

(注) 1. 当社は、自己株式を4,167,247株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況



株価および出来高の推移



会社概要

Corporate Data

■ 会社概要

社名 株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地 〒108-0023
東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL:03-3453-4111(代表)

資本金 9,435百万円
主な機能 経営戦略、法務・監査、経理・財務
総務・人事、IR・広報、技術研究開発

■ 役員一覧 (平成29年6月28日現在)

代表取締役会長	吉田明	
代表取締役社長	藤井久司	
取締役	高木清次	
取締役	宮本英典	
取締役	名取暢	
取締役	大島輝彦	
取締役	小林明彦	
取締役	高田和彦	
取締役	北田幹直	(社外取締役)
取締役	亀井泰憲	(社外取締役)
常勤監査役	北爪恒平	
常勤監査役	荒渡薫	
監査役	志々目昌史	(社外監査役)
監査役	八木和則	(社外監査役)
監査役	西山重良	(社外監査役)

表紙の写真

圏央道花島・鬼怒川橋

所在地:茨城県常総市花島町～三坂町

構造形式:6径間連続鋼桁橋(2連)

橋長:約580m 鋼重:1,357t(合成床版除く)

 株式会社横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL. 03-3453-4111(代表)

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合
交付株主確定日 は、毎年9月30日
定時株主総会 毎年6月下旬
単元株式数 100株
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063
電話お問い合わせ先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口 三井住友信託銀行株式会社
本店および全国各支店
公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL <http://www.ybhd.co.jp/>

■ YBHDグループ

 株式会社横河ブリッジホールディングス
グループ全体の経営管理

 株式会社横河ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・土木・建築・保全・精密機器製造

 株式会社横河システム建築
システム建築・開閉式建築システム・環境

 株式会社横河住金ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・セグメント

 株式会社 檜崎製作所
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品

 株式会社横河技術情報
情報処理サービス・ソフトウェア開発

 株式会社横河ニューライフ
不動産管理・情報システム・人材派遣

 株式会社ワイシーイー
橋梁等構造物の総合エンジニアリング



<http://www.ybhd.co.jp/>